



やらまいか

クラブテーマ：参加して、行動して、ロータリーを楽しむ Let's Enjoy Rotary

会長/大木健市 幹事/林 博宣 会報委員会/中西弘徳・宇野秀幸 例会/毎週火曜日 12:30 豊川商工会議所
事務局/豊川市豊川町辺通 4-4 豊川商工会議所会館内 TEL0533-86-2535 Fax0533-86-8889 HP/<http://toyokawahoi.tank.jp>

本年度第17回 通算1501回 平成29年11月7日(火)	出席報告	会員総数	出席者数	出席率	10/24修正出席率
		66名	35名	58.3%	93.1%

ゲスト:(なし) ビジター:(なし)

★会長あいさつ

大木健市会長



皆さん、こんにちは。先々週には、60代70代は一生のうちの最強の年代であると言ってエールを送りました。

た。

私事でございますが、本年65歳となりました。私が子どもの頃には、サラリーマンの定年は55歳であり、ついこの間までは60歳が定年でした。私が年を取ったということは、私の周囲の同僚も先輩も後輩も全く同じペースで年をとったということでもあります。なのに、自分では進歩もなく、退歩もなく、年長になったという気が致しません。私は、この20数年間、自分が40歳代前半、もしくは半ばごろにいる気分で固定されてしまっているらしく、その感覚で人と最初に出会った距離感がずっと続くのです。その時に、その人が20代であれば、何年経っても年下の人で、初対面の時に40代の人には、目上や同僚という印象をずっと持っています。

年寄りになっても気分だけは若いと言うのは、ちょっと嫌らしい感じを与えかねません。気分だけ若い私も、「ああ～やはり、年をとったんだとなあ」と改めて思い知ることがあります。その代表的なことは、同窓会などで同級生と久しぶりに会って、オジサンやオバサン、ジジイやババアになったのを目の当たりに

した時です。彼らや彼女らがそうになっているということは、私もそうなのでしょう。まことに周囲の人たちは、自分の姿を映す鏡なのです。

私が「若いつもり」の気分が抜けないのは、なぜか考えてみました。1つの結論が出来ました。それは、私と40年近くずっと一緒にいる家内がいつまでも若くて綺麗であり続けるということ。ロータリーに来れば、杉浦節子さんや大木悦子という美しい女性に会えることが最大の原因ではないかということです。これは、論理的な結論であり、反論は一切受け付けません。

皆さんもいつまでも若くお元気でお仕事やロータリー活動に頑張ってくださいようお願い申し上げます。ありがとうございました。

★幹事報告

林 博宣幹事

ロータリー希望の風奨学金への支援協力について

★委員会報告

雑誌広報委員会(原田委員長)

ロータリーの友11月号の紹介

★新入会員スピーチ

足立憲昭会員



こんにちは。本日、新入会員スピーチをさせていただきます。

最初に自己紹介をします。

牛久保で電気屋を生業としてやっております。小学校は牛久保小学校、中学校は南部中学校、高校は岐阜に行き、大学は茨城に行っていました。小学校2年生から高校までは、ずっと剣道をやっていました。高校時代に剣道をずっとやり、やり過ぎて剣道が嫌になっちゃって高校でやめてしまいました。

今日は、自分が消防にずっと関わって来たので、そのことについて話しをします。皆さんに、消防団、消防団の活動などご紹介できればと思っております。

消防団に入ったキッカケは、豊川に戻ってきて、父から消防に入るか、牛久保なのでお祭りに入るか、どちらかの町のコミュニティに参加するように言われました。当時は、お祭りは26歳までだったので、入っても直ぐに卒業なので、消防に入りました。その時、大木会長が、消防団の団長をされていました。

消防団に入った3年間ぐらひは、本当に嫌で嫌で仕方ありませんでした。学生終わって、消防団というのは、少し違和感があり、最初はほとんど参加をしていませんでした。良い先輩、良い友人に恵まれたお陰で、なんとか続けられました。平成8年に、牛久保の分団長を拝命し、その年に愛知県消防操法大会で南知多の大会に出たことが私にはターニングポイントでした。それからは、消防にのめり込んでいきました。

2002年に青年会議所に入会し、翌年に中村嘉輝委員長のもと、市政60周年委員会に配属し、愛知ブロックにも出向させてもらった時に河本さんが総括でした。浅野晋さんと一緒に出向させてもらい、防災という委員会に配属され、JCでもこんなことをするんだと言うことを知りました。消防とJCがリンク出来ることを凄く感じました。JCのノウハウをしっかりと学んで、消防に活かしたら良いと思いつつやりました。2003年出合いが、後々に自分が副団長、団長とやっていくなかに活かすことが出来ました。

平成21年から25年の4年間、豊川市の消防の副団長をさせて頂きました。その時は、方面隊長も兼務しておりました。方面隊長は60人の団体の長でした。平成26から27年まで、豊川市の消防団長をさせて頂きました。その時は、加藤雅美さんが副団長で色々と感じ立てて頂きました。丁度、一宮の再編成、御津の諸問題もあり、色々修正をしながら進めて参りました。その節には、小田さんや

加藤さんに大変にお世話になりました。

平成27年の第60回愛知県消防団の操法大会が豊川市でありました。愛知県下で行われる地方開催の最後の年になりました。今後は、名古屋や尾張旭で開催することが決まっていました。開催地区の団長として、名古屋などで色々交渉をさせて頂きました。その時の自分のスローガンとしては「記憶と記録に残る大会」でした。JCで市政60周年委員会をさせて頂いた時に、色んなところとコラボすることを教えてもらったので、消防も何かとコラボすることを考えました。豊川市には自衛隊もあるし、警察、商工会議所、地域のボランティアにも協力をして頂き、別ブースでイベントを行いました。JCで勉強させて頂いたお陰で、スムーズにやる事が出来ました。牛久保の出身者のアナウンサーの小林拓一郎さんに司会を依頼し大会を盛り上げてもらいました。



火災現場について少しお話をします。僕が火災現場に出たのは、消防団に入って直ぐでした。入って2年目ぐらひに、焼死体を現場から運び出す作業をしました。現場は六角町で、お爺ちゃんが亡くなられた火事です。丁度、自分は近くにいたので、焼死体を運んでくれと言われて運びました。凄い異臭で、何とも言えないショックを受けました。その作業を終えて、約束していた飲み会に行ったのですが、何も飲めず、食べれずでした。その時に大木さん達もいて、こんなことは一生にあるかないかの良い経験だと言われましたが、その3日後に、今度は自殺して火事になった現場に行く事になりました。その遺体も運び出しました。そのような経験をいくつかしました。

いくつかの現場を経験して分かったことが、どんなに寝たきりのお年寄りでも、火事になると窓の方に動いているのです。そして、だいたい下向きで発見されます。ある火災現場では、焼死体が仰向けだったことがあり、他

殺の疑いがあり事件性が高くなりました。自分は、その現場で遺体に触ってしまったので警察にも触ってしまったことを話しました。第一発見者なので、現場検証にも立ち会いました。その方は睡眠薬を常用していたので、結果的には事件ではなくなりました。今までで一番大きなのは、小坂井の殺人の火災現場でした。凄い現場でした。火災現場というより、殺人現場という感じで、立ち会った自分としてもつらい現場でした。

消防で色々経験させてもらったのですが、ある日お墓参りにお寺に行った時に、おじいちゃんが目の前で倒れました。心肺蘇生の訓練をしていたのですが、なかなか訓練通りには直ぐに出来ず、人工呼吸はちょっと出来なくて、胸骨圧迫の心臓マッサージをしながら、救急車を呼びました。結果的に一命は取り留めました。救急隊の方々に聞きましたら、訓練では人工呼吸をして下さいと言われるけれども、私が躊躇したように、なかなか出来る人は少ないので、出来なければ無理にすることは無いそうです。心臓マッサージだけはやって下さい。心臓マッサージをするだけでも蘇生するそうです。

最後に、消防団の人数が減っています。やはり有事の際には、消防団が必要です。皆さんの息子さん、お孫さんをどうぞ消防団に入れて下さい。また応援事業所というのもありますので、こちらへのご協力も是非ともお願いします。興味がある方は、私か消防本部にお問合せ頂ければ対応させていただきます。よろしくお願いします。ご清聴ありがとうございました。

★ロータリーニュース

2017-18年度国際ロータリー(RI)会長指



名委員会は、2019-20年度RI会長に、アメリカ・アラバマ州のジケーター・ロータリークラブ(RC)所属のマーク・ダニエル・マローニー氏を選出。

2017年10月1日までに対抗候補者が出なかったため、会長ノミニ

ーとして宣言されました。

「クラブはロータリーの心臓部であり、ロータリーのあらゆることはクラブで起こる」と

マローニー氏。弁護士であるマローニー氏は、草の根レベルでクラブをサポート・強化し、奉仕を大切にする会員制組織としてのロータリーの文化を守り、成長のために地域別の新たなアプローチを試みたいと考えています。

「ポリオが撲滅されれば、ロータリーが大きく認知され、多くの機会が訪れるでしょう」。そう語るマローニー氏は、世界でよいことをするグローバルな組織としてロータリーが世界を先導する立場になれる可能性があると考えています。

税法、遺産、農業法を専門とする Blackburn, Maloney, and Schuppert 法律事務所の社長であるマローニー氏は、アメリカ南東部・中西部の大手農場経営者の顧問弁護士であるほか、アメリカ弁護士協会の農業関係委員会の委員長を務めています。また、アメリカ弁護士協会とアラバマ州弁護士協会、アラバマ州法律協会の会員です。

地元ジケーターでも熱心に活動し、自身が所属する教会の財務委員長、地元カトリック学校理事長、ジケーターモーガンカントリー商工会議所の会頭を務めています。

1980年にジケーターRCに入会して以来、RI理事、財団管理委員と副管理委員長、ジョンサン・マジアベRI会長(2003-04年度)のエイドを務めました。また、規定審議会の議長と副議長のほか、2004年大阪国際大会委員会のアドバイザー、2014年シドニー国際大会の委員長も務めました。ガバナーとなる前には、研究グループ交換(GSE)のチームリーダーとしてナイジェリアに赴いた経験もあります。

同じ法律事務所の弁護士であり、ジケーターRCの元会長でもあるガイ夫人とともに、ポール・ハリス・フェロー、メジャードナー、遺贈友の会会員となっています。

なお、RI会長指名委員会の委員として、日本からは渡辺好政氏(第2690地区 児島RC)が出ています。

★ニコニコボックス

大沢茂樹会員	葬儀の会葬お礼
梅田喜嗣会員	誕生日を祝って頂き
高桑 耐会員	創業と入会を祝って頂き
加山昌弘会員	結婚と創業を祝って頂き
林 博宣会員	事業所創業を祝って頂き

会報担当：中西弘徳会員・宇野秀幸会員